

研究の概要

研究主任 平岡 正樹

〈研究テーマ〉

新学習指導要領「国語総合」の目標の一つである「想像力を伸ばす」ための効果的な指導

1 テーマについて

(1) テーマの選定

平成21年3月に告示された高等学校学習指導要領（「新学習指導要領」と表記する）の国語の目標及び「国語総合」「国語表現」の科目の目標に、「想像力を伸ばし」という記述が加えられた。

また、「国語総合」については、今回の改訂で共通必修科目となった。

そこで、新学習指導要領が実施され、「想像力を伸ばす」ための指導が行われる際に、私たちの研究がささやかな参考資料となることができたらと考え、上記のテーマを定めた。

(2) 「想像力」について

「想像力を伸ばす」とあるが、「想像力」をどう理解したらいいのだろうか。「想像」を辞書で調べてみると、以下のように説明されている（抜粋／下線は引用者による）。

○思いやること。実際には経験のない事物、現象などを頭の中におもい描くこと。

○根拠のある推測や、現実からかけはなれた空想をもいうことがある。

（小学館『日本国語大辞典』）

○現実には存在しないもの、あるいは現実の存在とは違ったものを心に思い浮かべること。

○想像というのは、過去の経験から得られた心像を再構成して、その個人にとっては現実的ではない新しい心像をつくることをいう。

○なお想像には、このほかに、将来についてあれこれと思いめぐらす予想的想像 anticipatory imaginationや、他人の行動とか想像に従う模倣的想像 imitative imagination などがある。

（小学館『日本大百科全書』）

『高等学校学習指導要領解説国語編』（平成22年6月）（『解説』と表記する）では、次のように述べられている。

- 「想像力」とは、物事を心に思い浮かべたり、推し量ったり、予測したりする能力である。
- 想像力を伸ばすとは、実際に見たり経験したりしていない事柄などを頭の中に思い描く段階から更に進んで、様々な資料を基に、これから起こるであろうことやどのように行動すればよいのかということを思い描くなど、将来の状況やあるべき姿を予測したり、見通しをもって行動したりすることの能力までを含めて身に付けることである。
- 高等学校段階における想像力には、物事の微妙なところまで感じ取る心情的な側面のみならず、根拠に基づき先を見通すなど、論理的な側面もあること、そして、そのような想像力を一層発展させる必要があることを明示した。
- （『解説』 p.10 / 下線は引用者による）

以上を指針とし、高等学校国語科において「想像力を伸ばす」指導を行う際に注意すべき点は、次の2点であるという共通理解に基づいて、研究を進めることにした。

- ①「想像力」には、「予測」、「推測」、「予想」の側面があること。
- ②「想像力」とは、「根拠」に基づいたものであること。

2 研究内容について

1 年次(平成22年度)

文学的な文章を題材にした、「想像力を伸ばす」ための効果的な指導

9月15日 校内研究授業 高槻美保・平松克子

実践Ⅰ：《作者の心情や作品の背景を想像しながら、鑑賞する。》

—「推論」— 国語総合（俳句・短歌／正岡子規）

10月15日 講演会（本校教職員対象）

「各教科における言語活動の充実にむけて」兵庫教育大学大学院 井上雅彦教授

11 月 5 日 校内研究授業 高槻美保

実践Ⅱ：《マッピングを活用して情景や心情を想像し、主題について考える。》

—「比類・分類・構造化」— 国語総合（小説／横光利一『蠅』）

11 月 17 日 他県教員による公開授業（本校生徒対象）

「想像力を伸ばす身体表現」愛知県立刈谷東高等学校 兵藤友彦教諭

1 月 18 日 校内研究授業 川井章弘

1 月 25 日 公開授業 平松克子

実践Ⅲ：《登場人物の立場になり、心情を想像して、手紙を書く。》

—「多面的思考」— 国語総合（歌物語／『伊勢物語』）

2 年次（平成 23 年度）

論理的な文章を題材にした、「想像力を伸ばす」ための効果的な指導

6 月 23 日 校内研究授業 佐藤康裕

6 月 30 日 公開授業 佐藤康裕

実践Ⅳ：《将来の生活について想像し、具体例を考える。》

—「縦思考」（具体と一般の往復）—

国語総合（評論文／港千尋「知識の扉」）

11 月 16 日 校内研究授業 大島弘子

11 月 30 日 公開授業 大島弘子

実践Ⅴ：《比べ読みの手法を用いて筆者の主張とその根拠を理解した上で、将来を想像して自分の意見を書く。》

—「主張・理由・根拠で考える」—

国語総合（評論文／内山節「自然と人間の関係をとおして考える」）

3 月 研究報告書発行

3 研究の過程について

1 年次（平成22年度）

平成 22 年 4 月、教科指導コンサルタントとして広島大学大学院教育学研究科教授の田中宏幸先生をお招きし、本校国語科の研究が始まった。

研究を始めるにあたって、まずは国語科内で自由に案を出し合った。以下が、その時に出された案をまとめたものである。

「想像力を伸ばす」ための言語活動案

①言語から情報を受けとって想像したことを、言語で表現する。

（活動例）

- ・詩を読んでその詩から想像したことを、自分の言葉で表現する。
- ・小説を読み、作品の内容を発展させて、同じ登場人物で違うストーリーを作ったり、話の続きを考えたりし、自分の言葉で表現する。

②映像から情報を受けとって想像したことを、言語で表現する。

（活動例）

- ・1 枚の写真を見て想像したことを、自分の言葉で表現する。
- ・複数枚の写真を見て想像したことを基にして、物語を作る。
- ・無声映画を観て登場人物のセリフを想像し、自分の言葉で表現する。

③身体表現から情報を受けとって想像したことを、言語で表現する。

（活動例）

- ・様々な「身体表現（ジェスチャーなど）」や演劇を観て想像したことを、自分の言葉で表現する。

以上を検討した結果、まずは『解説』（p.10）の「物事の微妙なところまで感じ取る心情的な側面」という記述に着目し、文学的な文章を題材にして、「人物の心情を根拠に基づき想像する力」を育成することを目指すことにした。

9 月 15 日に最初の研究授業を行った（**実践Ⅰ**）。今回の実践では、個人では限界のある想像の世界を、他者の意見を参考にすることによって広げることができるのではないかと考えた。そこで班活動を取り入れて「推論」する力を伸ばしつつ、作品に込められた作者の心情を想像する授業を試みたが、生徒は作品全体の大まかな世界をとらえるにとどまった。これは、生徒が根拠にすべき作品中の作者の言葉をしっかりと理解しないまま、想像しようとしたためである。言葉の意味を理解した上で、「根拠に基づいて想像する」ことの重要性が再認識された。

11月5日に再度研究授業を行った（実践Ⅱ）。9月15日の研究授業の反省を踏まえて、班の形態を工夫して生徒の主体的な学習を促したり、「マッピング」の手法を取り入れて情景や人物の心情を図式化したりして、「根拠」を視覚的に把握できるよう試みた。また、文章構成を「構造化」することで、生徒が様々な視点に立って考えられるようにした。今回の実践では、「語彙力アップの指導」や「効果的な評価方法」についての課題が浮き彫りになった。

11月17日には、愛知県立刈谷東高等学校から兵藤友彦先生をお招きし、本校生徒を対象に「想像力を伸ばす身体表現」というテーマで、公開授業を行っていただいた。これは、ワークショップ型の授業で、相手の態度や行為を情報として、言葉を介さず「他者の心情を想像する力」を伸ばす試みであった。

兵藤先生とは、本校国語科教員が刈谷東高校に学校訪問をした縁で、本校にて授業をしていただいた。

このように、他県の先生と交流・連携をする機会を得たことも、本事業の成果の一つであった。



（11月17日「想像力を伸ばす身体表現」）

1年次のまとめとして、1月18日に校内研究授業を、1月25日に公開授業を行った（実践Ⅲ）。この実践では、物語の登場人物になりかわって手紙文を書かせ、その手紙をやりとりさせることで、人物の心情を「多面的」に想像させる活動を試みた。11月の研究授業に比べると、「根拠に基づいて」想像させることはできたが、「根拠」を重視しすぎたためか、生徒が想像した人物像が班ごとに「パターン化」してしまったきらいがあった。

1年次の研究を振り返り、「成果と課題」を、教科指導コンサルタントの田中宏幸先生から、以下のようにお示しいただいた。

〈1年次の成果〉—指導法の工夫—

- （1）語彙力、表現力を豊かにする手立て
 - ・語感を生かした感情表現一覧表（表現マップ）の作成
 - ・リライト作文（往復書簡による相手意識の明確化、双方向型の伝達）

- (2) 協同的学習態度を育成するための手立て
 - ・ 班編制の仕方と役割の自覚、班活動の際の座席形態の改善
 - ・ 発表方法と評価シートの工夫
 - (3) 学習内容を明確化する手立て
 - ・ ワークシートの改善
 - ・ マッピングの活用（思考の可視化、連想による拡充、関係づけによる発見）
- …「思い付く」ための手立て

〈2年次に向けての課題〉

- (1) 教材に即した指導事項の明確化（「思考力」や「想像力」との関係をおさえて）
- (2) 言語活動のレベルアップ
- (3) 評価の観点と規準の明確化
- (4) 「比べ読み」のための教材開発
- (5) 読書活動への発展

2年次（平成23年度）

上記の「課題」を念頭に、2年目の研究が始まった。

2年次の研究は、論理的な文章を題材に行うので、よりいっそうの困難が予想された。『解説』（p.10）の「将来の状況やあるべき姿を予測したり、見通しをもって行動したりすることの能力」と「根拠に基づき先を見通すなど、論理的な側面」という記述に着目し、評論文において、筆者の主張から想像できる具体例を想起することを通して、「根拠に基づき将来を予測し自らの問題を解決する能力」を育成することを目指して研究を進めた。

6月23日の校内研究授業を経て、6月30日に2年次第1回公開授業を行った（**実践Ⅳ**）。この実践では、評論文中の抽象的な言葉に焦点をあて、その言葉から考えられる具体例を想像させる指導を試みた。その結果、「一般を具体化する想像」が、抽象的なものごとを理解する上で重要な役割を果たしていることが明らかになった。また、班活動を行い、それぞれの班の結果を発表し合うことで、「具体例を想像するという思考の方法」を共有できたことも成果の一つであった。だが、今回の実践が、『解説』（p.10）にある「将来の状況やあるべき姿を予測したり、見通しをもって行動したりする能力」を伸ばすための指導として適切であったか、という反省も残った。このことについては、公開授業後の研究協議において、「仮説を立て、実践した後に検証する」ことの必要性を指摘された。

11月16日の校内研究授業を経て、11月30日に第2回公開授業を行った（**実践Ⅴ**）。前回の指摘を生かして、『比べ読み』の手法を用い、様々な主張や論理の枠組みを理解させることによって、将来のあるべき姿を論理的に想像する力を伸ばすことができる。」と

いう仮説を立て、単元の最後に、データに基づいた検証を行った。この検証によって、『想像力を伸ばす』ための手法として、『比べ読み』は一定の効果がある」という一応の結果が得られた。だが、検証のために設定した「評価の観点」《a「具体性」 b「論理性」 c「思考の広がり」 d「思考の深まり」》が妥当なものであるかどうかも含め、「想像力の伸びを測る方法」自体についての課題が残った。

〈2年次の成果〉—前掲「2年次に向けての課題」と関連して—

(1) 教材に即した指導事項の明確化

…田中先生のご教示により、想像力を「思考様式」で分類（p 12 及び p 13 の表を参照）することで、指導事項を明確化できることがわかった。

※本校の実践と、「思考様式」との関係については、p 14 の表を参照。

(2) 言語活動のレベルアップ

…A 3 サイズの発表用ホワイトボードを導入して話し合いを活発化させるなど、生徒の主体的な言語活動を促す工夫を行った。

(3) 評価の観点と規準の明確化

…「想像力」を評価する観点として、
《a「具体性」 b「論理性」 c「思考の広がり」 d「思考の深まり」》
の4観点を設定し、規準の明確化を図った。

(4) 「比べ読み」のための教材開発

…教科書掲載の評論文を主要教材とし、複数用意した同じテーマの文章と「比べ読み」・「重ね読み」を行った。視点の異なる他の評論文と対比させることで、テーマについての理解が、多角的かつ重層的なものになった。

2年次を振り返り、今後も継続して取り組んでいくべき課題として、以下の3点が挙げられる。

〈今後の課題〉

(1) 「年間指導計画」における「想像力」の位置付け方

(2) 「根拠に基づく想像」と「豊かに広がる想像」の両立

(3) 読書活動への発展